

# FRONT LINE

## ライダーの胸部プロテクター着用を推進し、 二輪車の死亡事故低減に寄与していきたい

二輪車用品・部品を製造するメーカーや流通・販売を担う卸・小売会社で構成される(一社)全国二輪車用品連合会(JMCA)は、経済産業省、国土交通省、警察庁などの関係官庁や関係団体と協力し、不正改造車排除や安全装具着用を推進するなど、二輪車業界の健全な発展に寄与するための活動を行っている。

### 二輪車の不正改造に 歯止めをかける

JMCAの設立は1989年12月。「それまで、バイクの騒音や暴走族といった社会問題に対して、二輪車用品・部品業界としての対応ができていませんでした。このままでは、業界の発展が期待できないと、志を同じくする会社で業界団体を設立したのです。排気騒音問題を解決するため、マフラー(消音器)を中心に不法製品の一掃と、その製造に歯止めをかける取組みを始めました」とJMCA代表理事の松原弘さんは説明する。こうした活動が実を結び、JMCAの認定表示のあるマフラー以外は違法とみなされるようになった。さらに、JMCAではバイクが集まる様々なイベントに出展し、マフラーの音量測定キャンペーンを実施。規定値を超えるマフラーを装着しているライダーには合法のマフラーに交換するように啓発を続けている。

### 二輪車が「危険」という イメージを払拭するために

今、JMCAを含む二輪車関連団体は



(一社)全国二輪車用品連合会 代表理事  
(株)アールエスタイチ 代表取締役社長

### 松原弘さん

写真の「RC213V-S」は(株)アールエスタイチが購入し、大阪本店の店舗内に展示しているもの

を損傷部位別にみると、頭部が42・8%を占めている。そして、頭部の次に多いのは胸部(27・8%)だ。死亡事故を防ぐために、ヘルメットの正しい着用とともに、胸部プロテクターの着用を松原さんは訴える。同じ身体を守るためのヘルメットとは違い、日本では着用義務のない胸部プロテクターにはJIS規格のような安全基準は設定されていない。そのため、JMCAは胸部プロテクターの日本国内での自主規格制定に向けて動き出したのである。

「ホンダが20年ほど前に胸部プロテクターに着目し、開発したことが普及への第一歩となりました。それを追うように、私たちも胸部プロテクターを製造・販売するようになったのです。安全性に優れ、ライディングの快適性を両立させた自主規格を私たちが示し、それに適合した胸部プロテクターを着用することでライダーの死亡事故の低減に寄与できると考えています。強制ではなく、バイクに乗る時に必要なものだと、ライダーが感じて着用することが理想です」と、松原さんは2016年中に自主規格を制定したい考えだ。

「二輪車は20年ほど前に胸部プロテクターに着目し、開発したことが普及への第一歩となりました。それを追うように、私たちも胸部プロテクターを製造・販売するようになったのです。安全性に優れ、ライディングの快適性を両立させた自主規格を私たちが示し、それに適合した胸部プロテクターを着用することでライダーの死亡事故の低減に寄与できると考えています。強制ではなく、バイクに乗る時に必要なものだと、ライダーが感じて着用することが理想です」と、松原さんは2016年中に自主規格を制定したい考えだ。

規格を私たちが示し、それに適合した胸部プロテクターを着用することでライダーの死亡事故の低減に寄与できると考えています。強制ではなく、バイクに乗る時に必要なものだと、ライダーが感じて着用することが理想です」と、松原さんは2016年中に自主規格を制定したい考えだ。

JMCAは(一社)日本自動車工業会、(二社)日本ヘルメット工業会と、ヘルメットのごとく正しい締め方、胸部プロテクター着用を啓発するためのビデオを制作し、JMCAに加盟している用品店で流すなど、ライダーが身を守る装備の適正着用を推進している。

### 安全性と快適性を備えた ウェアやプロテクターを ライダーに提案していく

「胸部プロテクターのことは知っているが、購入しようか迷っている段階にきていると思います。自主規格の制定をきっかけに、ヘルメットとともに命を守るために必要な装備であることを理解してもらい、普及にはずみをつけたい」と松原さんは語る。

松原さんは(株)アールエスタイチの代表取締役社長でもある。同社は1975年に創業し、ライダーのための安全性と快適性を備えた高品質のウェアやプロテクターなど二輪車用品の企画・開発・販売・小売を手がけている。

「二昔前はファッション性を追求していましたが、今は安全を何よりも優先させています。バイクに乗ることを前提にしたウェアであれば、ライダーの身体を守るための最低限の安全が担保されたものにしなければいけません」と松原さんは強調する。

「胸部プロテクターは重く、かさばるから着用をしないというライダーもいます。それを解決したいと、当社でも『テクセルチェストプロテクター』という軽量の商品を開発し、昨年春に発売しました」と、一人でも多くのライダーに着用してもらおうための努力を重ねている。

そして、大阪府と京都府にある同社直営の店舗では、接客を担当するスタッフが積極的に胸部プロテクターをお客様に勧めている。また、バイクで通勤するスタッフには正社員、パート社員にかかわらず、胸部プロテクターの着用を義務づけている。自らの実体験を通して、お客様に胸部プロテクター着用の意義を説明してもらおうとねらうのだ。

「私たちがきちんと説明すれば、お客様もより安全性の高い商品を選んでいただけるようになってきたと感じています」。

### 中高年ライダーは、 格好いい振る舞いを

松原さんに近年の若者のバイク離れについて伺うと、現状で若いライダーを一気に増やすのは難しいという認識を示す。「でも、悲観はしていません。今の若者もいずれは年をとります。若者が今の中高年ライダーを見て格好いいと思ってもらえれば、自分が中高年になり、生活に余裕ができた時に『バイクに乗りたいたい』と思ってくれるはずです。そうした新たな流れをつくり出すことも大切ではないでしょうか。そのためには、中高年ライダーには、若者が憧れるような格好いい振る舞いをしてほしいと思います」。

今後、松原さんは一人でも多くの人にバイクの楽しさを感じてもらおうための環境づくりにかかわっていく考えだ。



(株)アールエスタイチが開発した「テクセルチェストプロテクター」は厚さ17mmで重量約200g。女性専用(写真右)も用意されている